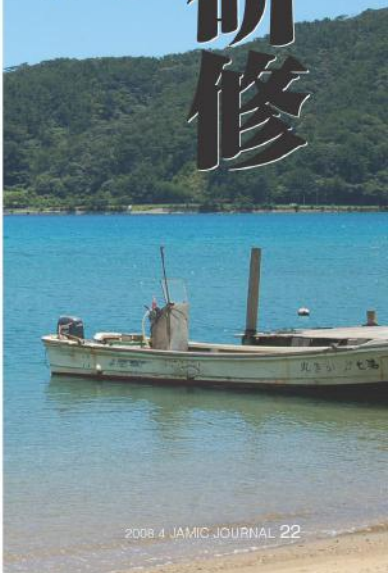


# 離島医療と医師研修

## 離島・奄美における救急医療活動

第7回

千葉県立東金病院 内科医長 古垣 斉拓



### 奄美群島を取り巻く救急医療の現状

奄美群島は人口約13万人（うち奄美大島・本島は人口約6万人）であり、群島内の病院16カ所、診療所108カ所、総病床数3248床である（2003年9月）。奄美群島の中心地である奄美市には、鹿児島県立大島病院（350床）、奄美中央病院（99床）、名瀬徳洲会病院（255床）をはじめとする病院や診療所が集まっている。ほとんどの疾患は奄美群島内の病院で治療を行うが、群島内に心臓血管外科領域の手術を行う施設がないので、心臓血管外科領域の疾患等は、本土あるいは沖縄本島に搬送していた。また奄美大島・本島は、島の北端から南端まで自家用車で約3時間はかかる（1）大きな島である。本島内の町・村や群島内の離島（徳之島・喜界島など）に

は医療機関が少ないので、航空機・船舶等を利用して奄美市内の病院や鹿児島県本土、沖縄に患者さんを搬送することも多い。

鹿児島県・離島救急統計では、82年ごろより離島からの航空機等による患者搬送が増え、90年から97年までの航空機等の搬送は年間約100件であった。鹿児島市立病院、救命救急センターに収容された疾患の内訳は、頭部外傷、全身熱傷、溺水、くも膜下出血、脳出血、心筋梗塞、切迫流産などで、脳疾患が半数を占め、2日以内に死亡した重症例は13%であった（第2回空の旅医学研究会報告より）。

### 離島から本土への救急患者の搬送

群島内には患者搬送用の航空機はないので、奄美から鹿児島県本土に搬送する際には鹿児島・鹿屋の海上自衛隊

に、沖縄本島に搬送する際には沖縄の自衛隊に行動を要請することになる。また、病院から奄美市の消防局に患者搬送の要請を行い、その後県庁・消防防災課等に自衛隊の出動を依頼するため、出動まで3〜4時間かかる（自衛隊の出動は県知事命令で実施されるために、煩雑な事務手続きが必要となる）。さらに、鹿児島・鹿屋もしくは沖縄本島から奄美群島に航空機が到着するまでに片道1〜2時間はかかる。

のほかに民間の航空機や船舶の搬送も含むと、年間62回に上るといふ（琉球新報07年4月）。

### 大動脈解離で沖縄に搬送した1例

筆者が奄美中央病院で後期研修を行っていた際の経験を紹介してみたい。筆者の糖尿外来に入院されていた当時55歳の男性が、台風の最中に受診した。主訴は胸背部痛であり、精査したところ大動脈解離（Stanford A型）と診断し、緊急で心臓血管外科での手術が必要と判断した。そのころ台風は奄美群島を通過し、鹿児島県本土に向かって北上していた。風雨はまだ強く、奄美群島関係の航空機や船舶は、ほとんどストップしていたと記憶している。台風の影響で鹿児島・鹿屋の自衛隊機は出動困難であり、沖縄本島の自衛隊に行動を要請した。出動許可を得るま

### 瀬戸内町の救急当番医制度

南大島診療所のある大島郡瀬戸内町では、日曜・祭日の当番医制度がある。南大島診療所、民間病院および町立べき地診療所等が交代制で行っている。当番医制度は毎週土曜日午後から日曜・祭日終日の時間帯に実施され、瀬戸内町内の病院・診療所の医師労働を軽減する目的がある。当診療所でも毎月1回はこの当番医制度の日があり、当番医の際には、加計呂麻島・諸島・与路島などの離島のなかの離島を含めた瀬戸内町全体からの急患や救急車を基本的に受け入れている。しばしば入院加療を必要とする場合もあるので、当番医の際には診療所のベッドを空けておく必要がある。

今回は離島診療所に勤務された医師にアンケートを行ったので、結果の詳細を報告する。

1972年鹿児島生まれ。01年3月、鹿児島大学医学部卒業。鹿児島県立病院で研修医を行い、その後4年間にわたり鹿児島県奄美大島で離島医療に従事した。06年4月、奄美医療生活協同組合常務理事・南大島診療所所長。07年4月より千葉県立東金病院地域医療推進室室長。

### 南大島診療所における救急医療の現状

05年度（1〜12月）には、南大島診療所への救急搬入件数が年間99件（表1）、当診療所から他院への救急搬送件数が年間128件であり、全日本民医連の有床診療所（23カ所）で最多で

【表1】南大島診療所への救急搬送、重症度別の件数

重症度	2005年度	2006年度	2007年度
軽症（帰宅できる）	25	20	9
中等症（診療所で数日間の入院治療を要する）	60	67	36
重症（病院へ搬送して入院治療を要する）	13	11	7
死亡	1	0	1
合計	99	98	51

【表2】南大島診療所から他院への救急搬送、疾患別の件数（2007年度）

脳疾患	9(21.0%)
脳出血	6
脳梗塞	3
心疾患	9(21.0%)
急性心筋梗塞	4
完全房室ブロック	1
重症心不全	2
不安定狭心症	2
呼吸器疾患	4(9.6%)
重症肺炎	3
気管支喘息大発作	1
消化器疾患	6(14.4%)
急性胆のう炎	3
イレウス	1
マロリーワイス症候群	1
出血性胃潰瘍	1
その他	14(34.0%)
心臓停止	1
その他	13
合計	42(100%)

あった。当診療所では2日に1回の頻度で救急車の搬入もしくは搬送があることになる。離島診療所では医療過疎のために救急車の搬送先の病院が少なく、診療所に搬入することが多くなる

また当診療所からの救急搬送先としては、奄美市にある鹿児島県立大島病院が多い（05年度128件中、県立大島病院71件、奄美中央病院24件、他の民間病院23件等）。しかし奄美市まで

救急車で約50分ばかり、かつ急峻な山道を進むために、同乗する看護師や医師の負担も大きい。さらに重症者の同乗は医師が行っており、心臓停止、急性心筋梗塞、脳出血、重症肺炎等の患者さんを搬送している（表2）。重症者の場合には救急車内で急変することもありえるので、心蘇生術に必要な器具・薬剤等を車内に運び入れて、緊張しながら同乗することもしばしばである。

連絡先：nirugaki@hotmail.com



鹿児島県 奄美大島

